

## 編集後記

新型コロナウイルスと共存してきて3年目を数えます。大学は感染対策を保ちながらもすっかり通常授業に戻り、フィールドワークやインターンシップも復活してきました。学生さんのためには本当によい方向に向いているようで、一安心しています。

昨年度末に開催したオンラインシンポジウムは初めての試みでしたが、毎年ニュースで話題になるクマについて、その生態や被害状況、共存のための試みや解決策などを専門家の方に詳しく語っていただきました。全国から150名を超える方がご参加され、オンラインシンポジウムは場所を選ばず多くの人たちが参加可能で、活発な意見を交わし合える大きな可能性を持ったイベントだということが今回の試みでわかりました。今後も継続して皆様に興味を持てるようなトピックで、研究所主催でのシンポジウムが開催されることと思います。

今年は本学の学園祭は対面とオンライン開催とのハイブリッドで、本研究所の催しは三度目の「国立公園映像コンサート」で、本研究所員宮地先生の企画により、「マロニエトリオ」の皆様が演奏する美しい音楽と映像を楽しむことができました。清々しい山の空気、花畑を渡る風の音、その花にたくさんの虫たちが集まり野原に乱舞する羽音、しんと森に雪が降り積もるかそけき音等、マロニエトリオの演奏を通して、自然の小さな営みの音も一緒に聞こえてくるような気がいたします。今年も江戸川大学国立公園研究所のHPにアップされましたので、どうぞご高覧下さい。

今号も論説・論文・報告、そして雑誌「国立公園」の記事等、先生方のご研究の成果をご紹介できましたことを大変嬉しく思います。

創刊号から関わってきた年報の編集作業ですが、今号をもちまして私は担当を辞すこととなり、最後の仕事がこちらの編集後記となりました。

お世話になった現研究所長中島先生、創立時所長の親泊先生、年報編集委員長の油井先生、研究所員の先生方、シンポジウム等にご参加いただいた関係者の皆様、そして年報をお受け取りになってお目通しいただいた皆様に、この場をお借りしてこれまでのご厚情につき心から御礼申し上げます。

江戸川大学学術情報課 紀要事務担当  
高橋 恵美